



二色  
の  
泡

R18

A black and white illustration of a hand reaching out from the bottom right. Above the hand is a large, billowing cloud of bubbles of various sizes. The background is dark with a halftone dot pattern.

—待って…!!

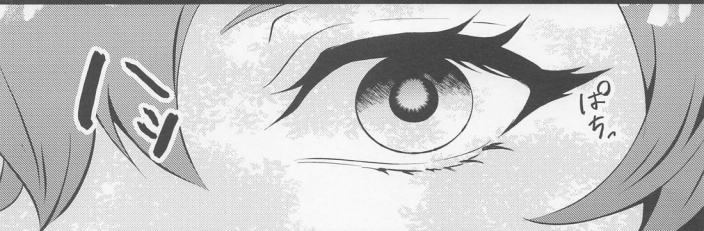
置いていかないで—!!



—ルック

ディルック!

義兄さん!  
起きろ!



ほち、

ハシ



夕飯の準備ができたからって

呼びに来てくれたのか

ああ、すまないガイア



また本を読みながら寝てたのか?  
風邪ひくぞ



そんな年寄りが読むような本

俺には理解できそうにないな

僕も全て理解が出来るわけではないよ

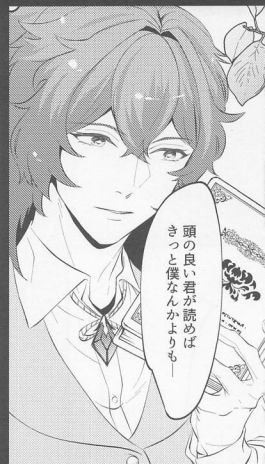
ただ、詩的な響きが美しい

なるほどな、  
そりやあますます解からないな



ほら急ごう

今夜は義兄さんの好きな  
イノシシのステーキだつてさ



頭の良い君が読めば  
きっと僕なんかよりも



それは楽しみ—

—っ…!?



—ガイア!



望んでいるものを手にして  
何の得があるうか

それは夢  
瞬間の出来事

泡のように消えてしまう  
つかの間の夢



なんだ  
珍しいな



そんなに情熱的な目で見られちゃあ  
去るに去れなくなっちゃうだろう？



だから何でもないと行って！！

僕は忙しいんだ



やめてくれ

早く仕事に行くんだな  
騎士団のガイアさん



ははっ手厳しいな  
旦那サマは

また今夜  
出直すとするよ







わかったもう行くさ



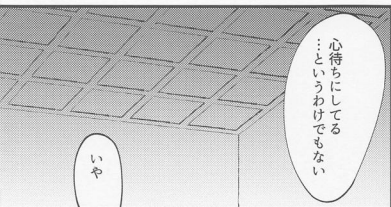
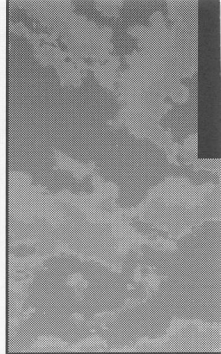
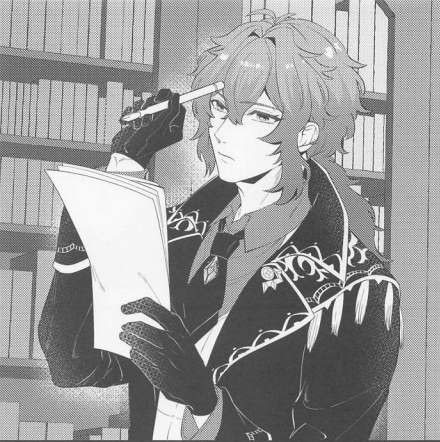
頃合いを見てまた来るよ



…それにしても  
妙な夢を見たな



頃合いってなんだ…



心待ちにしてる  
…というわけでもない

いや




あれから  
2週間くらい経つか？



昔の夢なんか見たせいだな

あいつだっても思い付きで  
訪ねてきてるだけだろう



考えるのは止そう

〇〇  
僕らは所詮――

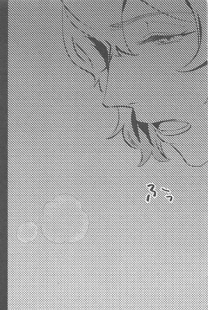
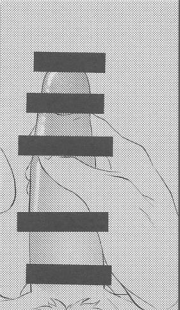
そう、今

求められているからといって

つかの間の快楽でしかない

さほど重要ではないのだろう

あいつにとっては

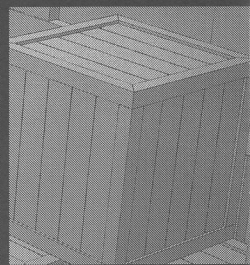


ガイア!

お、おい

んーなんだ?

ガッ



おい、触るな!

こっちはどうだ?

いやしてる

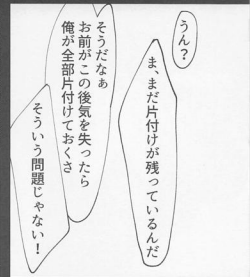
ゴッ



せっかく二人きりになれたんだ  
我慢なくていい

が、我慢なんて

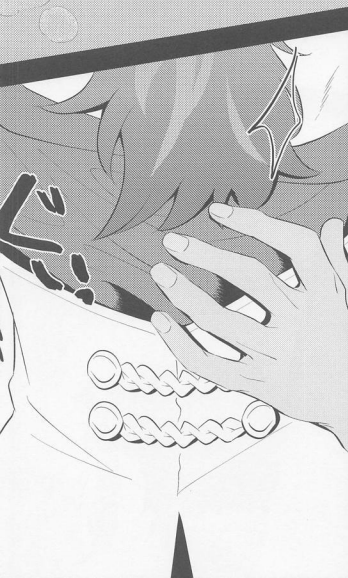
なんだじゃない  
この酔っ払い!!





その声















お前だってまだ足りないだろう？



いつもあんなに…

なあ？



気持ちいいな

デイルック

…うっ

ハッ

ズッ

ズッ

ハッ

ズッ

ズッ

アッ



早くしてくれ…!

…おれさ



お前

この後どうなるのか  
わかってるのか?

いつも



何回だって



俺に揺さぶられるのが  
たまらないって顔して  
ねだってくる

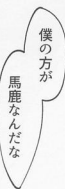




いじや……



あいつがあんなこと言うから



僕の方が

馬鹿なんだな

なんて浅ましいんだろう

気が付けば

身体の隅から隅まで  
あいつに侵されていた

もう拭い去ることができなくて  
欲望に流される





俺をひとりにしないで



いやだ！  
にぃさん行くな！





良い夜だな

旦那さま



よっと



また君は  
そうやって突然

僕は忙しいんだ



精が出るな間夜の英雄様は

何をいっているんだ  
僕はこれから

まあそうせっかちにしないでくれ

君のことだ  
この時間に訪ねてくるという事は  
大した用事もないんだろう

つれないなあ

わかってるだろう？

久しぶりに会いに来たんだ

付き合ってくれてもいいじゃないか

……

ハッ



君は  
別に僕じゃなくなたっていい



わきあふれた性を  
処理するだけだろう



そんな冷たいこと言うなよ

ハハッ



はあ

まあ君に  
僕の話聞いてもらわなくてもいい



どうしたんだよ突然

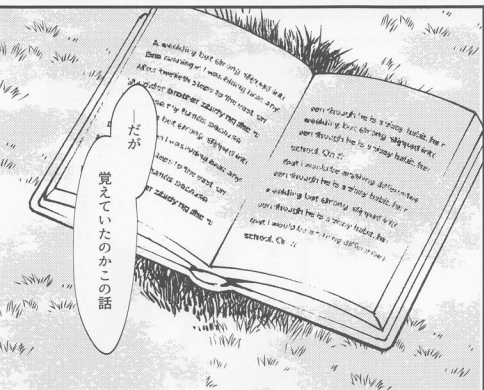
その感情が  
一刹那じゃないなら――

ひとときの甘さを  
求めていたって



一本の葡萄の樹を倒しだっしてするさ

一粒の極上の甘美の為に



だが

覚えていたのかこの話



フン

悪いたとえ話だな



とんだ見当違いだな

僕の質問の答えにはなっていない

そうツンツンするな



いいたとえじゃないか  
俺は効率の悪いことはしない

ほら、こんなに熟れて美味そうだ



もうやめろ  
僕はまだ仕事が残ってるんだ

その辺の雑魚なら  
ここに来る途中で片付けてきたぞ

丹精込めて大樹に育て上げて  
一粒ずつ味わって頂くとするよ

とでも言っただけだったのか？



すまなかったよ  
デイルツク

厄介な仕事に駆り出されて  
中々会いにこれなかったんだ



はは  
期待はしないでおくよ  
旦那サマ

泡のように消えてしまう

つかの間の喜びだとしても





夢を見たんだ





